達谷窟(岩手県西磐井郡平泉町)

801年に征夷大将軍の坂上田村麻呂が、ここ達谷窟を拠点としていたエミシ(蝦夷)を討伐した記念に、毘沙門天を祀った達谷窟毘沙門堂を建立したと云う



達谷窟

たっこくのいわや

Takkoku no Iwaya

平泉中心部の南西約6km、太田川北岸の東西長約150m、最大標高差約35mの断崖に掘られた洞窟が達谷窟です。窟の前面には懸崖造の毘沙門堂があり、南面して中島を伴う池(蝦蟇ケ池)が配置されます。また、毘沙門堂西側の岩面に磨崖仏が刻まれています。

『吾妻鏡』によると、源頼朝が奥州藤原氏を滅ぼして鎌倉へ帰還のおり、ここに立ち寄り別当寺の達谷 西光寺の寺領を安堵したことが記されています。

発掘調査の結果、平泉最盛期(12世紀)にはすで に毘沙門堂の前面に池が存在していたことが確認 されています。

平泉はもとより、東北地方における仏教信仰の実態を理解する上でも欠くことのできない重要な遺跡として、史跡に指定されています。

Takkoku no Iwaya is 6kms southwest of Hiraizumi, on the north bank of the Ota River. The Bishamondô (Bishamon Hall) stands on tall wooden supports across the opening of a cave which is 150m wide and 35m high. The natural cave has been enlarged further back into the cliff. To the south, in front of the Bishamondô is the Gamagaike (Toad Pond) with a small central island. To the west of the hall is the Ganmen Daibutsu, a large Buddha that has been carved into the cliff-face.

According to Azuma Kagami, (the official history of the Kamakura Shogunate), Minamoto no Yoritomo visited Takkoku no Iwaya on his way back to Kamakura after defeating the Öshu Fujiwara, and he pledged the security of the lands belonging to Seikoji, the head temple of Takkoku no Iwaya.

Excavation and research have confirmed that the pond existed in the 12th century heyday of Hiraizumi. Because of these important remains that help the understanding of Buddhist belief in both Hiraizumi and Töhoku, Takkoku no Iwaya was designated a Historic Site.







、三之鳥居ハ杉之鳥居」と称され、古くか 「一之鳥居八石之鳥居、二之鳥居八丹之鳥 鳥 居い

と鳥居は昭和三十年に失われたが、平成十年 ら参道にあった。三之鳥居は明治初期に、二 とりい うしな

に再建された。二之鳥居、三之鳥居ともに、

他には見られない特殊な形式を今に伝えていません。

一之鳥居は「ひこじうらう、とくち、

でいのじゃう」という達谷村の三人の石工に (せいのじょう) たっこといし . 45 えどじだい たっこくむら こんりゅう

より違谷石を用いて江戸時代に建立されたも

のである。





中古文學の故郷 達谷窟と田村

中古文學や藝能 これ以 る最古 夷大將 の記録 軍坂上田村麿公東征 『田村三代記』 の他 は 吾妻鏡』 日 本 國中の社寺縁起にこの窟の名が記され、 『諏訪大明神繪詞』 文治五年(一一八九) の靈蹟で殺生禁斷 地。 『鹿嶋合戰』 九月廿八日の条であ 國指定史蹟達 『神道集』等 谷 古來

今なほ日本 も著名な窟で 模を誇る大堂であります

また窟毘沙門堂は岩窟に堂宇を構える窟堂と

創建の大將軍に於 の規制を かれま しては『公卿 補任 に 「毘沙門」 天元 化日 身來を 9

門天と見做す田村信仰發祥の靈場と ヲ護 ル 」と記され てゐる様に して、 大將軍は神であ 貴賤の尊崇を集めて参り り、 その 本は 地 ま を し 毘び

7 沙門 ある田村麿 堂内陣 公の の扉の奥に祀られる御本尊様は、 御る を模 て刻 し給ふ攸の 秘佛であります。 慈覺大師が毘沙門天の それ 故

遊空 沙門 行 の聖や山伏 様に抱 かれた 床 乞 食等の 下 0 80 空間 る安住 は往古よ の宿 り守 2 して、 護 不入とされ、 また合戦 に 敗 諸 れた 國でなれ

靈魂 があ の古か ら歸 り來き 7 集ふう 聖なる所と して 現在 0

身を隠

而る後

生ま

れ變

つて往

く再生の

場と

て、

さらに

ばり

さ ぬ禁足地とされ てお り、 その 信仰は

ふことなく、 極樂往 生 0 際点 は 毘で 沙 樣書 が擁護 現古で毘沙 給電 3

8 ま た。

仰き塵ま 諸神に御詣りすれば、 鳥居を潛り達谷窟毘沙門 延曆廿 堂 0 年 御二 0 神光 創建以 域。及 以いび来意別の 當 テは 0 達 ŧ 谷 はか 西 光 5 80 寺は 田た 内点

佇ひ きつと懐 か < 感 じられることでせう。

無大慈大悲多門天王

無田村大將軍

平成十八年正 月雪

合掌がつしょう

别等 富さ THE





達谷窟毘沙門堂縁起

されている。 所願寺として寺領を寄進されていた。 八九年)源頼朝公が奥州合戦の帰路、毘沙門堂に参詣され、その模様が モ干二百年の昔、惡路王 佐を擁したが、 先失するが、 門堂と名付けた。 模ねて九間四面の精舎を建て、百八躰の毘沙門天を祀り、国を鎮める祈願所とし するの報を聞くと、武威を恐れ窟に引き返し守を固めた。延暦二十年(八〇一年) 原氏初代清衡公・二代基衡公が七堂伽藍を建立したと伝えられる。 定した。大将軍は、 前九年後三年の役の折には源頼義公・義家公が戦勝祈願の為・寺領を寄進し、 慶長二十年 奥眞上人を開基として東西三十余里、南北二十余里の広大な寺領を定めた に籠る蝦夷を激戦の末打ち破り、惡路王・赤頭・高丸の首を刎ね、遂に 蝦 王等は違谷窟より三千余の賊徒を率い駿河国清見関まで進んだが、大将軍が める等乱暴な振舞が多く、 武天皇は坂上田村麿公を征夷大将軍に命じ、 中世には七郡の大守葛西家の尊崇厚く、延徳二年(一四九〇年)の大 直ちに再建された。 天正の兵火に罹り、岩に守られた毘沙門堂を除き、 (一六一五年) 伊達政宗公により毘沙門堂は建て直され、爾来伊達 そして延暦二十一年(八〇二年) 戦勝は毘沙門天の御加護と感じ、その御礼に京の清水の 舞 赤頭 戦国時代には東山の長坂家より別當が赴き、多く 国府もこれを抑える事が出来なくなった。そこで 丸等の蝦夷がこの窟 には別當寺として達谷西光寺 蝦夷征伐の勅を下された。 に塞を構る え、 塔堂樓門悉く焼 良民を苦しめ 「吾妻鏡」 文治五年

和二十一年隣家から出火。御本尊以下二十数躰を救い出したが毘沙門堂は全焼 二十六年に再建された現堂は創建以来五代目となる。内陣の奥に慶長二十年 伊達 馬の厨子を安置 次の開扉 は平成五十四年となる。 L 慈覺大師作と伝える御本尊・ 吉祥天 . 善賦子童子を秘佛として

門天は 月三日の月例祭、春秋の大祭を始め多くの祭事があるが、特に正月一日から八日 れる修正會は慈兇大師から恵海大和尚が伝え、 の福を招き 虎年の守本尊である。 諸々の願が叶うとされ、毘沙門講を結び参詣する人々が後を断たな また軍神であり悪鬼を拂い 千余年も続く神事である 財宝・官位・ 智与



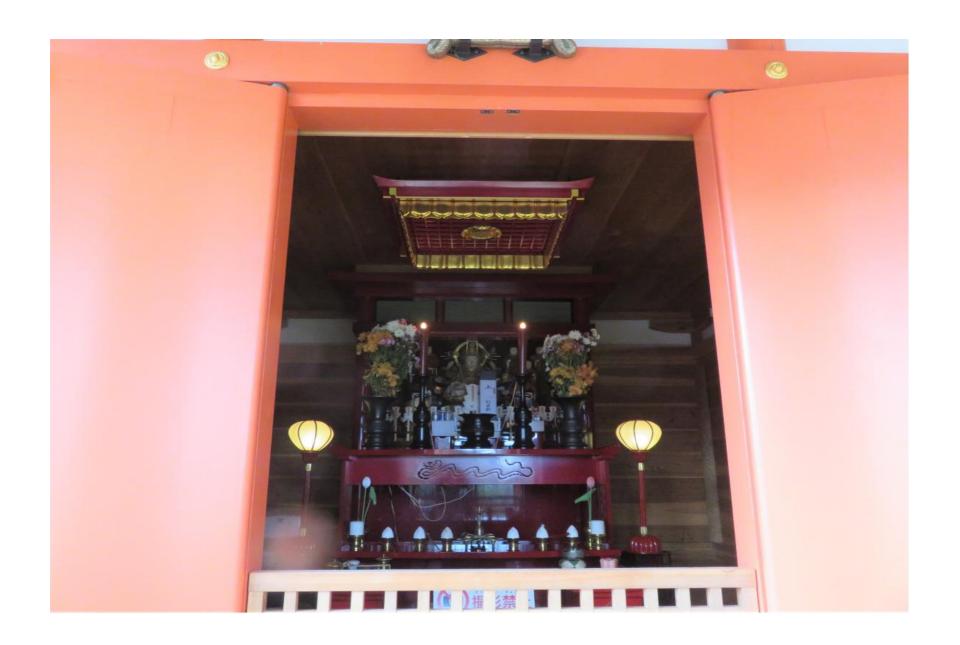
蝦蟆ケ池辯天堂

であり、特にも虵はその最も
尊いものとされてゐる。 される美しい御姿は美人の譬とされたが、悋氣な天女の故、仲のないのである。 良き男女は共に詣らぬ習しがある。また、蝦蟆ケ池は神の池ょをによるときまり、ないまないは、かまがはけんからいけん。 岸から平安末期の土器が大量に發掘されてゐる。現堂は、昭和だれてゐる。現堂は、昭和だっていまれまできょうない。 冠に頂く八肘の辯才天女を自ら刻して祀り、蝦蟆ケ池辯天堂を はい はん ばんだんにょ きず こく まつ がま がいけくんてんどう の執行に甚だ不便であつたゝめ、平成廿五年癸巳の歳に、元禄しまます。はままなくん。ったれていまにはまされる寺のとみ、とし、けんろく と名付けたと傳へられる。昭和六十年の調査で蝦蟆ケ池舊護 らへて窟毘沙門堂の前まで引きゐ、再び逃げ出さぬやうに一 **辯天には錢上げて拜め」といはれ、金運商売の神で商家の信仰へんてん せにまっまが しんこう** る貧乏を齎す貪欲神が化けてゐると見破った。大師は嶋を捕 行き来するのを、奥刕巡錫の慈覺大師は、五色の蝦蟆の姿であい。 四面の堂宇を建立し、蝦蟆を降伏する白虵、即ち宇賀神王をしまんできるう。これがは、かいましているのではない。かいんない こゝに棲む生きとし生けるものは古來から辯天樣の御使 なったものである。辯天樣は巳年守本質。昔から「藥師、 時の舊規に倣ひ、脇士の十五童子の内の九躰と共に、御は、ままり、おきり、おきり、いますしょうりょうち、くたいとも、こ い。智惠の神、技藝の神。そして、「生けるが如し」と賞 減面の水を湛へてゐた逹谷川や北上川を美しい浮嶋が まためん。 まず たたえ い たっこくがわ きたかみがわ うつく うきしま













がん 面光 大概 佛き

に「大日之尊體」 五尺(約十六・五 以って彫り付けたと伝えられている。 この大佛は高さ五十 方の諸霊を供養する為に陸奥守源義家公が 馬上より弓弰を は岩面大佛と呼ばれている。 の磨崖佛」として名高い。元録九年(一六九六年) 三十三尺 がん めん だいぶつ まがいぶつ たいにち の そんたい (約九·九四) m なだか (岩大日) その後岩大佛と記され、 いわだい にち 顔の長さ十二尺 (約三·六m) 肩巾 全国で五指に入る大像で、 むつのかみ みなもとのよしいえこう ぜんこく げんろく こし こいわだいぶつ 787 はい にも及ぶ大岩壁 だいぶつ はじょう の記録 「北限

追善の伝説からも阿彌陀如來とするのが正しいと思われる。 その証左として岩面大佛の下に立つ「文保の古碑」(二三二 猫、尊名は岩大日の記録から大日如來とする考えもあるま。 そんめい いみだいにち きょうく だいにちにょらい かんが 拙寺では昔から阿彌陀佛の名号を唱えており、 がんめん だいぶつ だにょらい みだぶつ した 戦死者

明治二十九年に胸から下が地震により崩落し、 現在も摩滅

七年)

には阿彌陀の種子である「気」

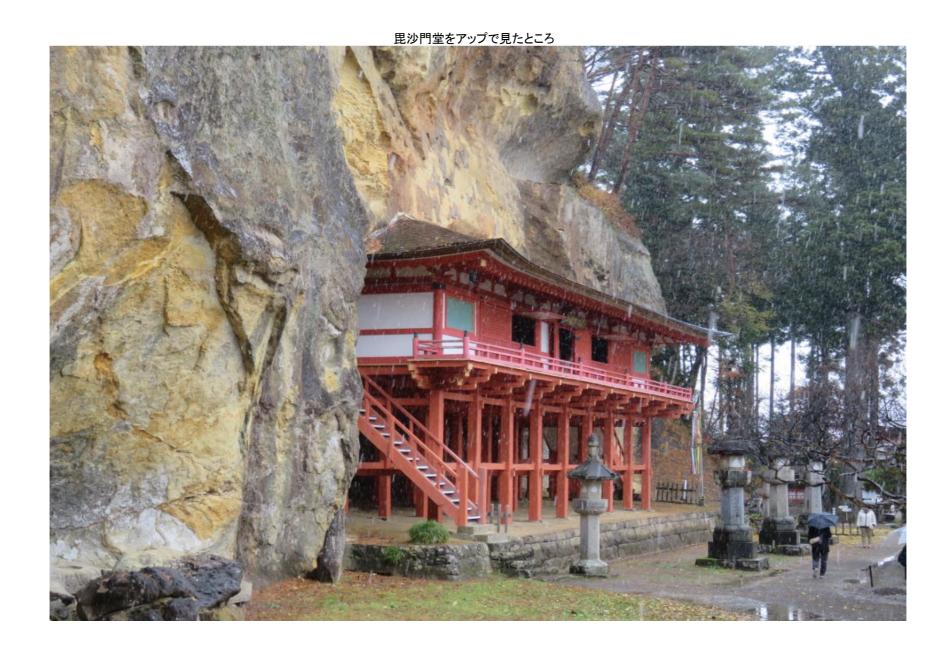
ほうらく

が刻まれている。

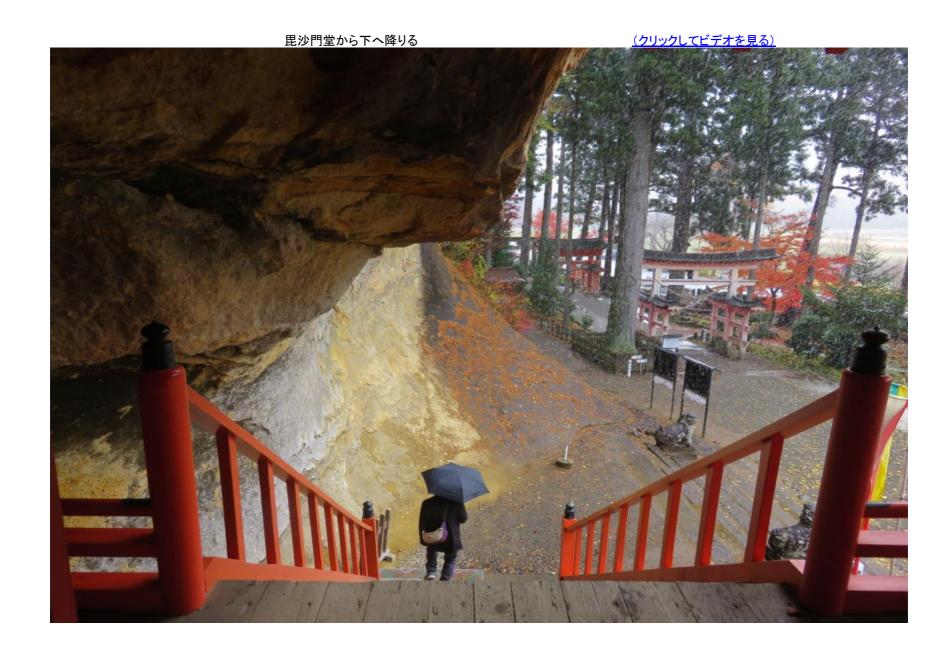
が進んでおり早急な保護が叫ばれている。

















姫待不動堂

る姫君を待ち伏せした瀧を人々は「姫待瀧」 ひのまちのたき 閉ち込め、「櫻野」で暫々花見を楽しんだ。逃げようとす 窓路王等は京から攫って来た姫君を窟上流の を る まう ら きょう さら き ひめ きみ いかせじょうりょう と呼び、再び 育 姫の 1

けた石を「髱石」と云う。 坂待不動尊は智証大師が達谷西光寺の飛地境内である 姫 va 青 は どうそん ちしょうだい し たっこくせいこうじ とび ち けいだい ひめ ふじ わらもと ひらこう さいこん

る大師様不動の大像である。製作年代は平安後期で、岩手だいようぶとう たいぞう せいさくねんだい くいあんこうき いやて 待瀧の本尊として祀ったものを、藤原基衡公が再建した。 しかし年月を経て堂宇の腐朽が著しい為、ためのとしつまった。 八九年)に当地に移された。桂材の一木彫で全国でも希ないのである。 寛政元年 (二七

県有形文化財に指定されている。

当地では **涯一度の大願を掛けに参拝する習が現在も続います。 たいがん か せんばい なられむ げんざい つつ** とりどし の守本尊として名高く、なたかなたか 「火之神様」と呼ばれ、火伏不動尊として信仰さ また宮城県栗原の信者が生 いている。

れる他、 習がある。 室町時代、左が江戸時代の作で達谷村の権現舞に使われたのからできょうだ。など、まというだったのことがあったがあった。こればんまい、つか 猫、不動尊膝前に祀られる獅子頭は向って右が まっ いっさんひざまえ まっ

ものである。

姫待不動尊と記された扁額 国の保護権 -400 nse de la constante de la cons **胃苦事集事 英回印度**汉书 量内据影禁止





楼き

雇毘沙門堂、鹿島社と共に慶長二十年(一六 たまひしゃ もん どう かしましゃ とも けいちょう

こんりゆう

つた

江戸時代には伊達藩が毘沙門堂と共に屋根の 五年)の建立と伝える。 き替えを行なっていた事が記録に残る。

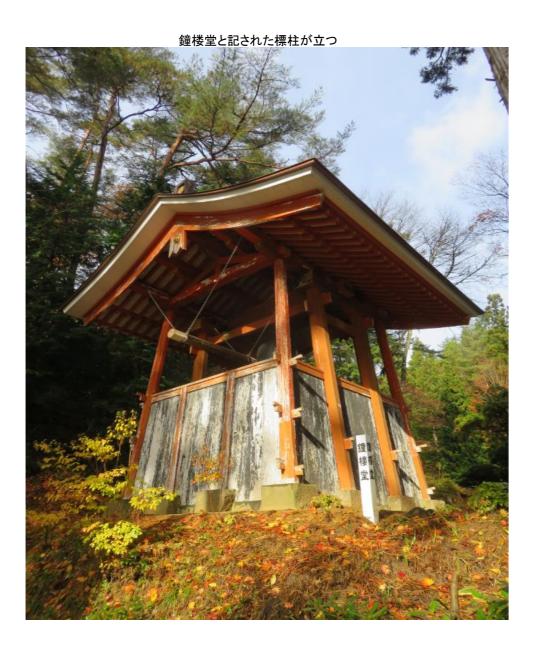
かっては板葺で百二十貫(約四五Okg)の洪鐘 を吊っていたが、昭和十九年に戦時供出。 はいままります。 ねれ また はまります ままります

十七年に御修覆を了え、面目を一新した。 ، راي ، 昭和五十八年に百五十貫(約五六三kg)の洪鐘 ご しゅうふく

こ五ツ(午前八時、辰刻)九ツ(正午、午刻)

1年後四時、申刻)に昔ながらの打鐘で時

を報せている。







♀年 が延徳二年(一四九〇年)の大火で焼失した。 古くは講堂とも呼ばれ、 時代には現在地に建てられた客殿が金堂 に達谷川対岸の谷地田に建てられた たっこくがわたいがん 金元

ちた

しょうしつ

延暦二十一年

八

堂等

て破棄された。昭和六十二年に再建に着手し、 の役割を果していたが、 明治初年に排佛棄釋 さいこん ちゃくしゅ

平成七年に完成した。 後世に技を伝える為、 こうせい つく つた **桁行五間梁間六間の大** むかし 昔ながらの工法 こうほう

松で刻まれた四尺 ししなく (約二二〇㎝)の薬師如來 やく 本尊は眞鏡山上の神木の やくし

を用いて作られた。

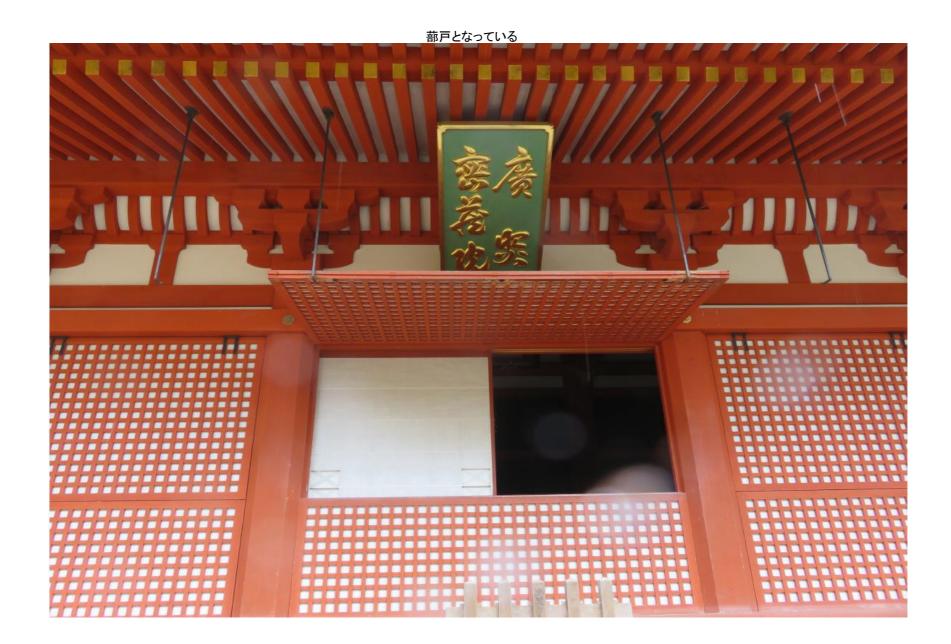
ほんそん

しんきょうさんじょう

しんぼく

である。





参考ホームページ

http://www.iwayabetto.com/mysite1/bisyamondou.html

https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/173935

https://traveltoku.com/iwaya-hi/

http://www.do-be.jp/hiraizumi/bishamondo.html

https://japanmystery.com/iwate/takkoku.html

https://wondertrip.jp/1009891/

http://www.uraken.net/rail/travel-urabe520.html

http://teratabi.com/travel/iwate/takkokunoiwava/

